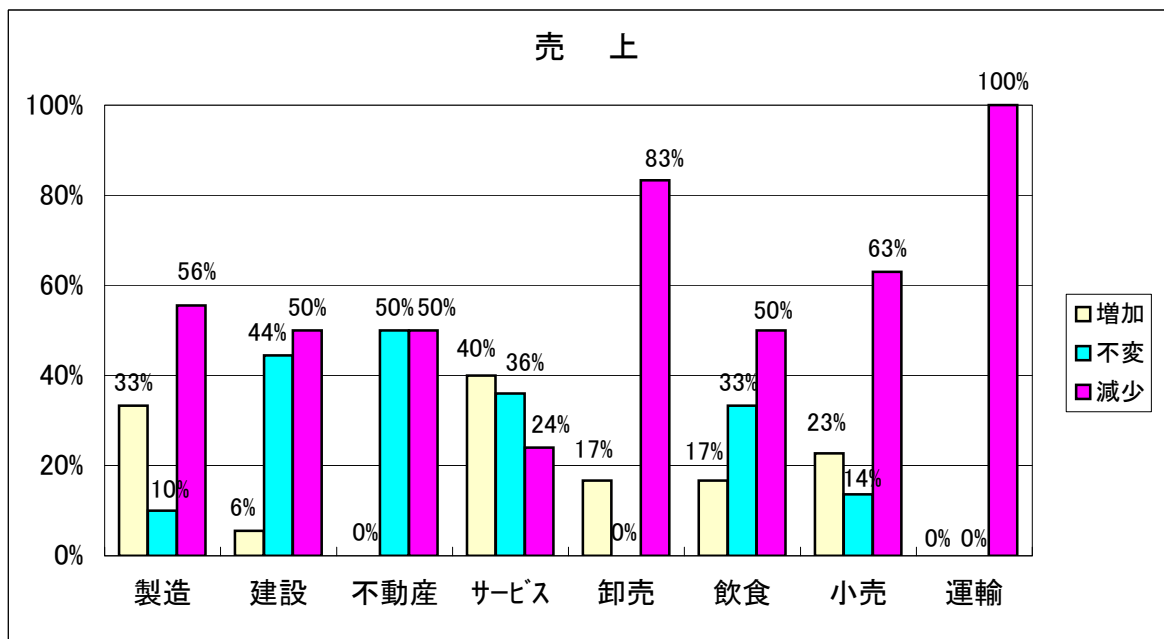


調査1 平成23年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と及び平成24年上期の見通しについて比較表示してある。

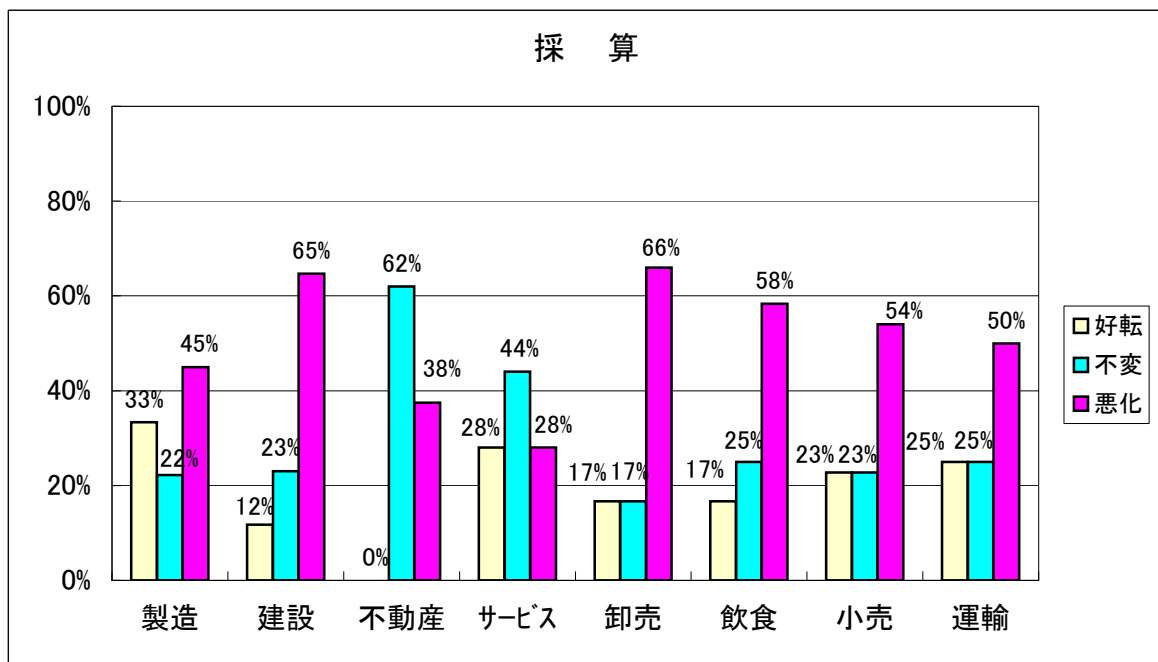
①売上について

売上は運輸業(100%)、卸売業(83%)、小売業(63%)が大きく減少している。前回調査(H23.7)と比べると卸売業が大きく減少している。一方、売上増加ではサービス業(40%)が復している。



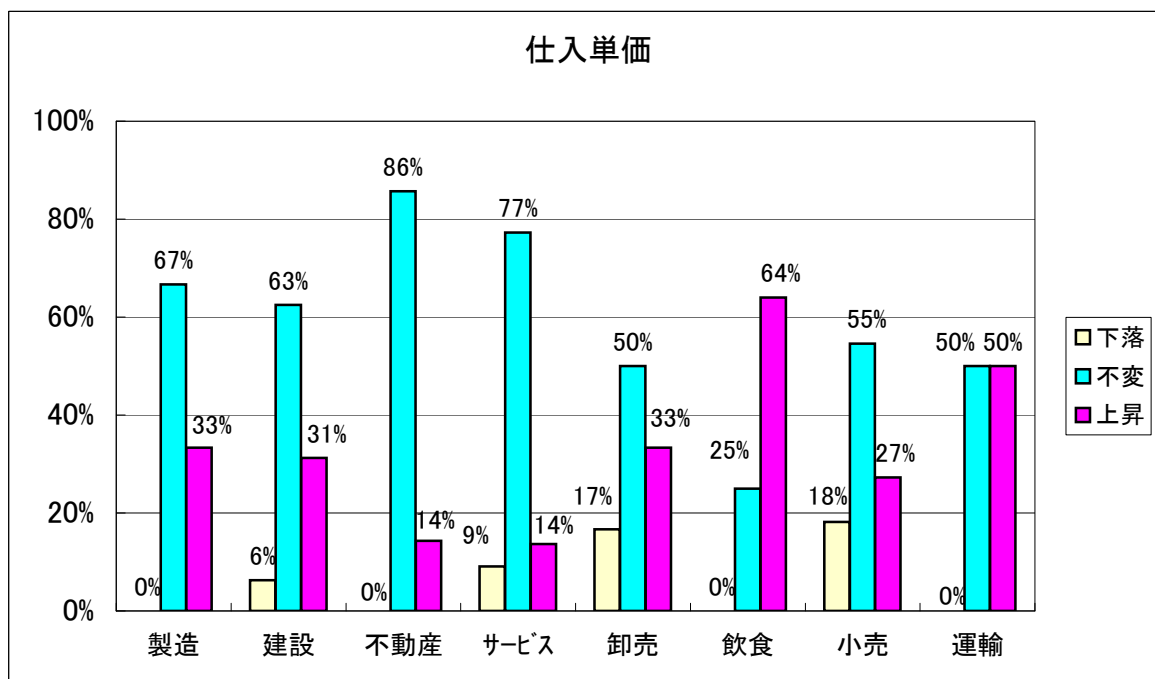
②採算について

採算では、サービス業が「好転」と「悪化」が同数で、それ以外は全体的に「悪化」傾向にある。「悪化」の傾向が大きいのは、卸売業(66%)、建設業(65%)、飲食業(58%)となっている。



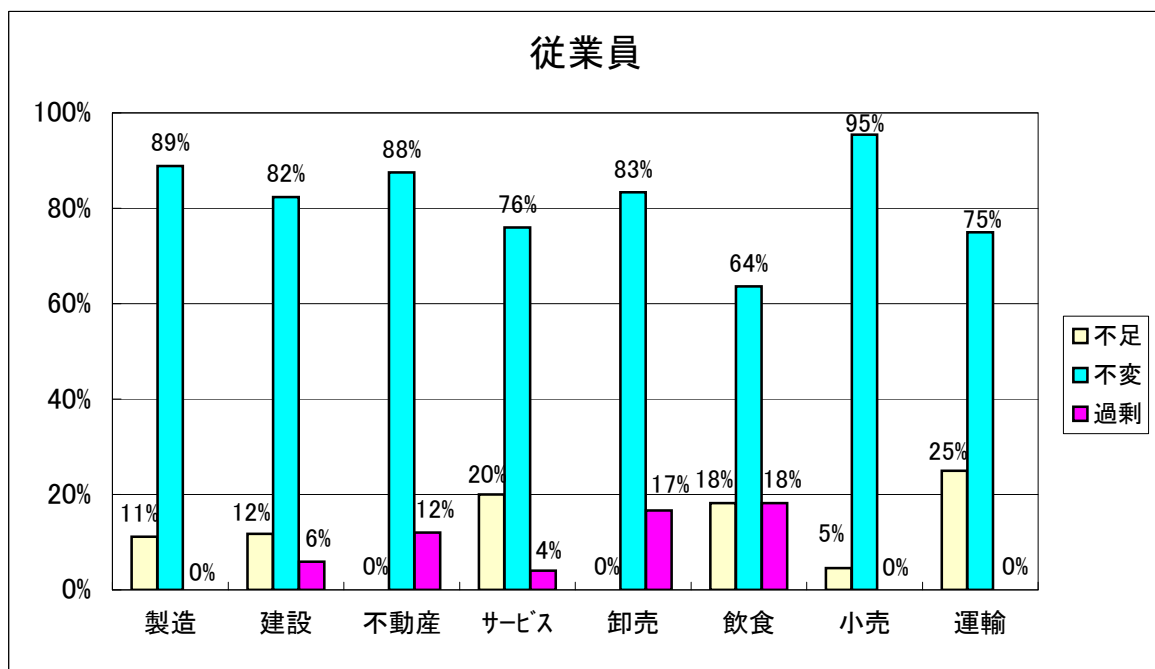
③仕入単価について

仕入単価で、「不変」傾向が強いなか、飲食業が「上昇」64%と突出している。これは天候不順による食材の高騰が要因と思われる。

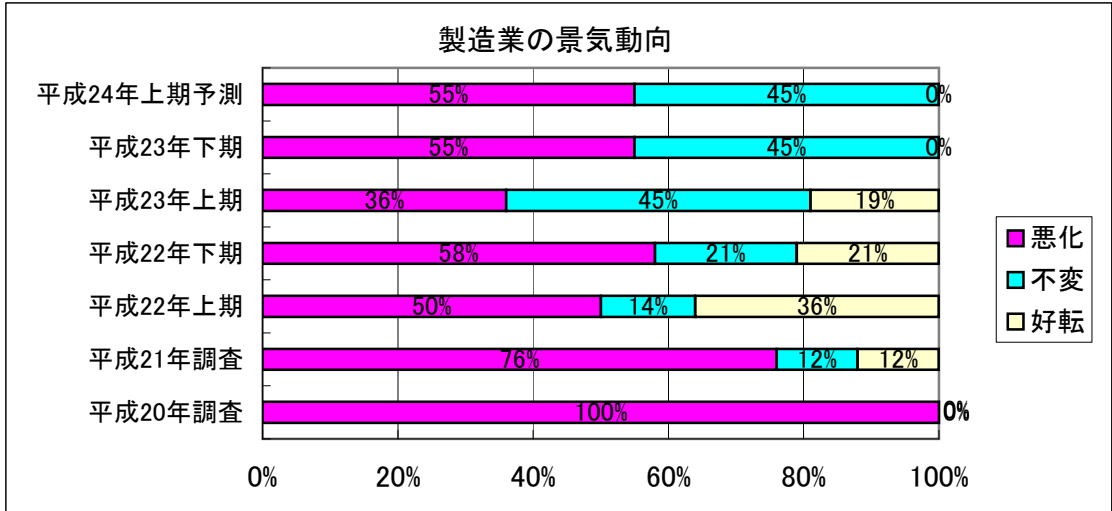


④従業員について

全体で見ると約82%が「不変」と回答し、前回調査と変化はなかった。「不足」が多いのが運輸業(25%)、飲食業(18%)、建設業(12%)となっている。

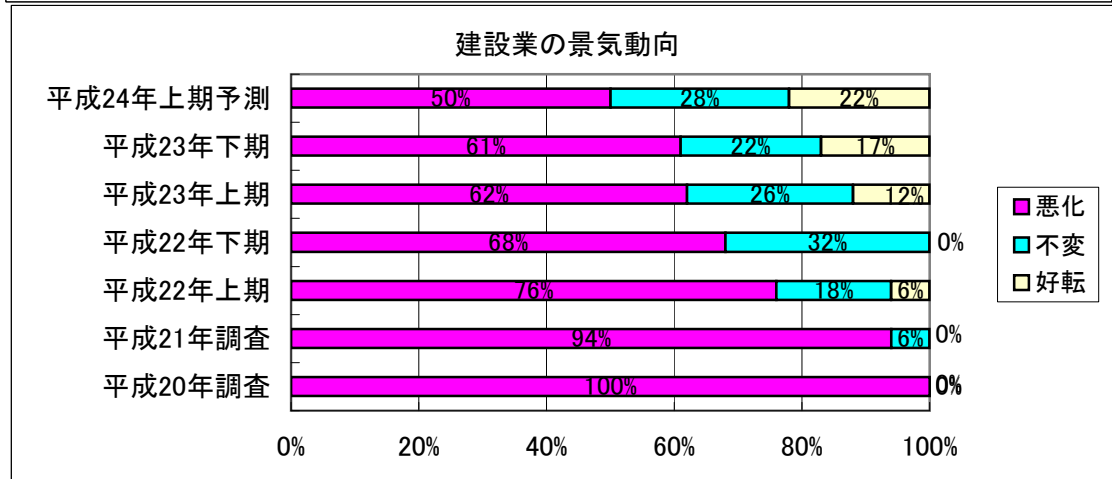


⑤ 業界の景気動向について



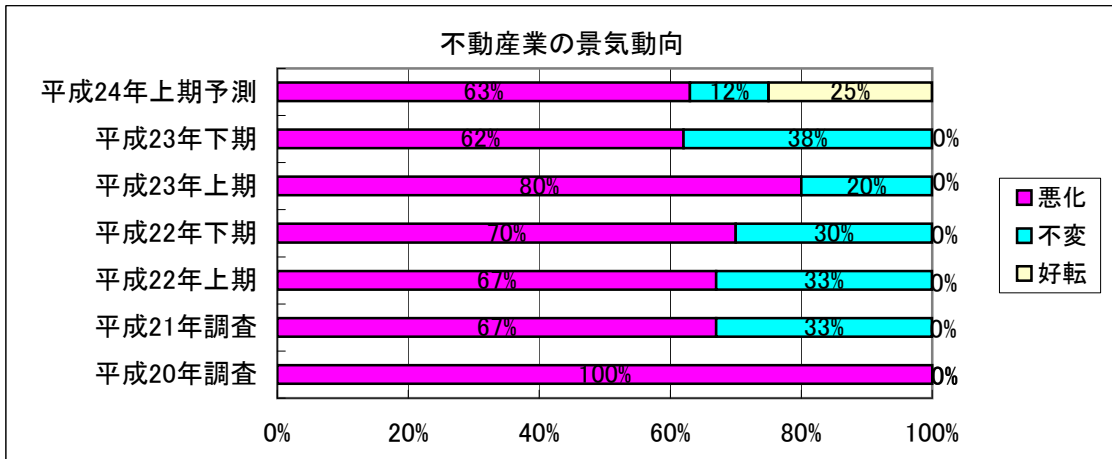
■ 製造業

平成23年下期では、55%の企業が「悪化」と回答し、前回調査より景気の後退がみられる。平成24年上期の先行きも厳しい結果となっている。



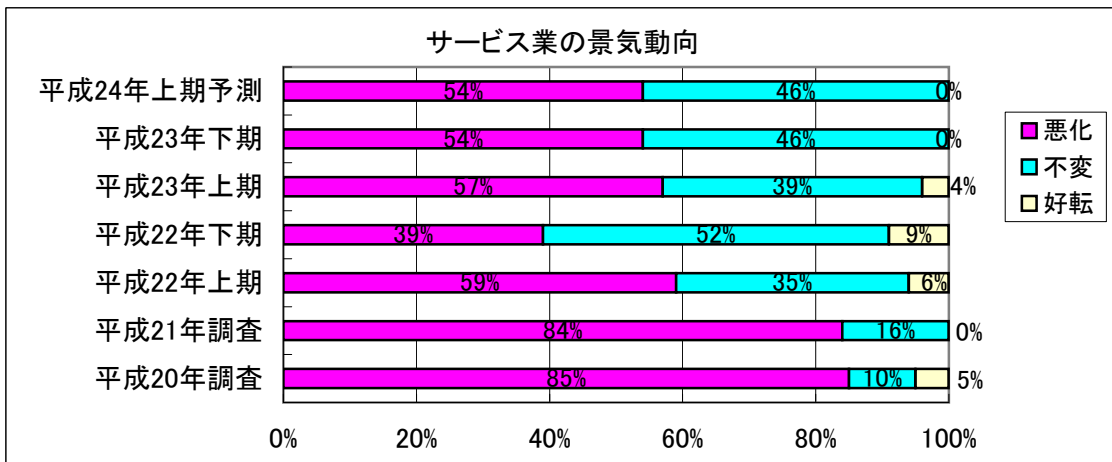
■ 建設業

平成23年下期では、「好転」が17%の企業が回答し、徐々に改善の兆しが見えている。「悪化」傾向は徐々に少なくなりつつある。平成24年上期では、「好転」が22%となっている。



■ 不動産業

平成23年下期は、「悪化」が62%と前回より減少している。平成24年上期予測では、「好転」が25%と回答しており若干明るい兆しが見られる。



■ サービス業

平成23年下期では「好転」なく、「悪化」が54%で、「不変」が46%となっている。売上は伸びているようだが、景気動向は厳しい状況である。

■卸売業

平成23年下期は「悪化」が67%、「不変」が33%となっており、前回調査から更に悪化傾向になっている。平成24年上期の予測では、83%が「不変」と回答し依然として厳しい状況が予想される。

■飲食業

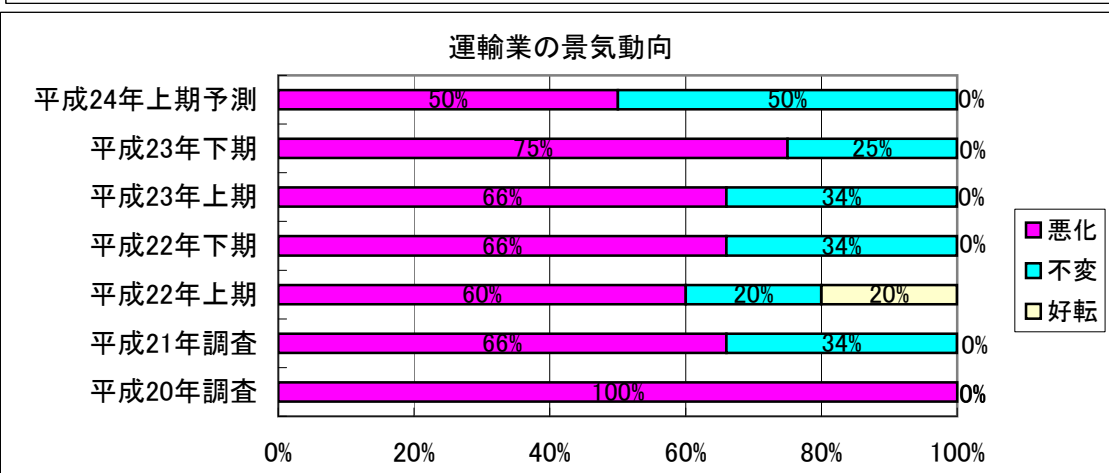
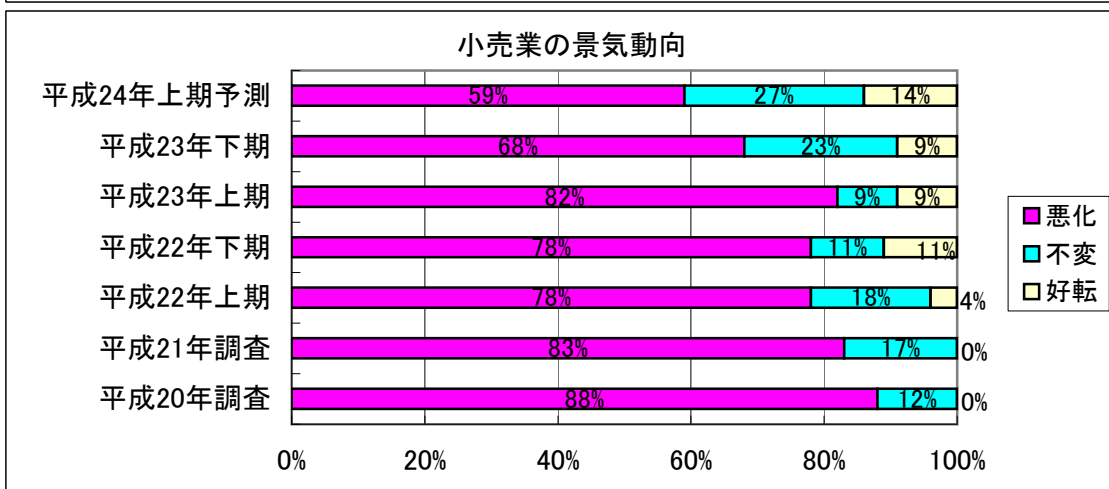
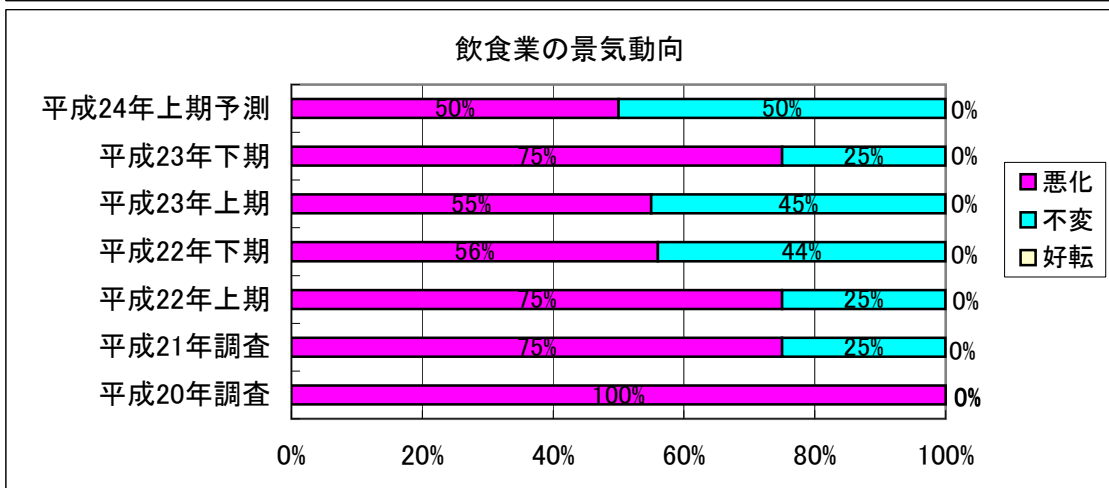
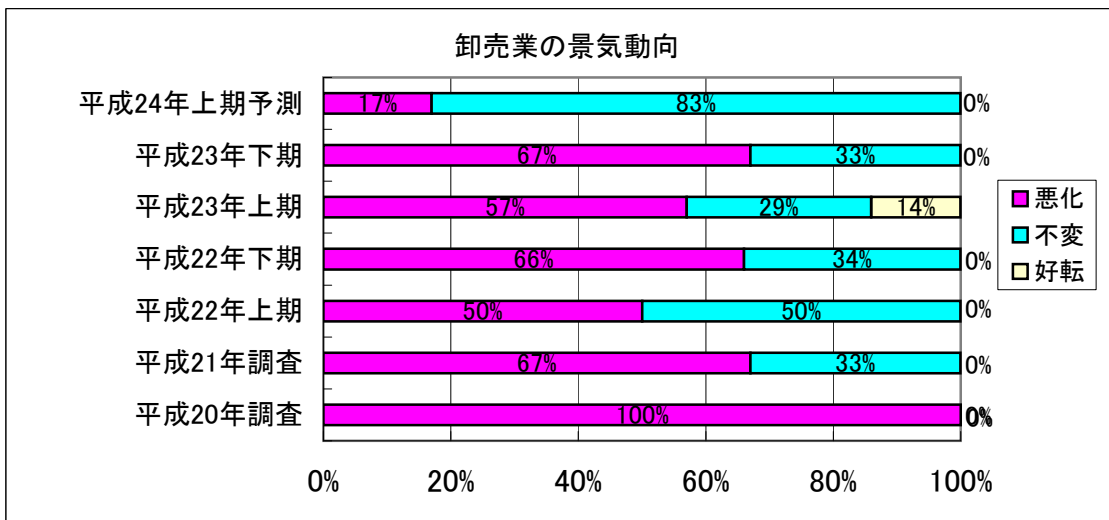
平成23年下期では「悪化」が75%と非常に景気が悪い状況である。平成24年上期の予測でも50%が更に「悪化」と回答している。

■小売業

平成23年下期「好転」9%、「不変」が23%となっており、前回調査に比べると若干景気が回復している。平成24年上期予測では、「好転」14%、「不変」が27%となっている。

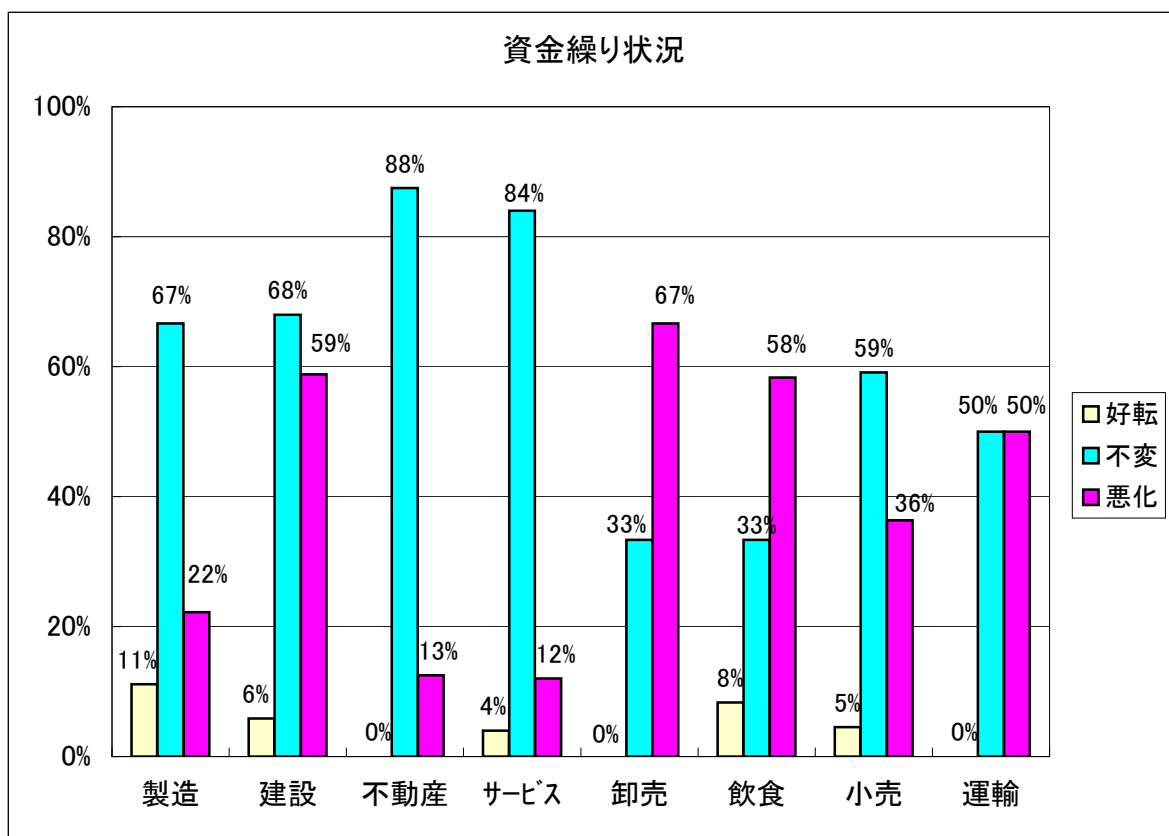
■運輸業

平成23年下期は「悪化」75%と前回調査より景気は悪化している。依然として原油価格の高騰、競争激化が響いている状況である。



⑥資金繰りについて

全体でみると企業の65%が「不変」、40%が「悪化」、5%が「好転」と回答している。「悪化」が著しい業種は卸売業(67%)で前回調査より悪化している。続いて建設業(59%)、飲食業(58%)と続いている。また、「好転」しているのが製造業(11%)であった。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が48%、「融資無し」が32%、「厳しい」が15%、「緩やか」が5%であった。「厳しい」との回答が多かった業種は運輸業で50%で、前回調査と同じであった。

